

^{せき}
⚠️ 咳エチケット していますか？ ⚠️



何もせずにくしゃみやせきをする



くしゃみやせきを手で押さえる

他の人にうつさないため^{せき}咳エチケットをしましょう

^{せき}
3つの咳エチケット



マスクを着用する
※隙間がないように
鼻までおおいましょう



マスクがないときは
ティッシュやハンカチで
口や鼻をおおう
※使い終わったらすぐに
ゴミ箱または洗濯をする



とっさのときは
袖で口や鼻をおおう

コロナウイルスに加えてインフルエンザや胃腸炎なども流行しています。

咳エチケットで感染拡大をおさえましょう！



関節の画像検査



関節の検査はいろいろあるけれど、何が違うの？
簡単に説明してみます。

レントゲン（単純X線）

レントゲン博士が真空放電の実験中に手をかざしたら骨が写ってびっくり。それから百数十年、フィルムカメラがデジカメになったように、装置も進歩しましたが、原理は変わらず、肺のような物質の少ないところは、X線はよく通り抜け、骨のような重くて濃密な物は通りにくい。つまり肺や骨がはっきり写し出されます。

骨や軟骨にリウマチ性の変化がないかをみます。骨が壊されると、骨が欠ける骨びらんという所見がみられ、軟骨が壊されると、関節の骨と骨のすき間が狭くみえます。



X線CT

大きいドーナツに入って360度からのX線検査。コンピュータが計算をして、かつては輪切り画像だけでしたが、今や3次元画像に進歩しています。レントゲンでは重なってあまり見えなかった骨の詳しい様子や脂肪や筋肉や腱なども見えやすくなります。手術前の詳しい検査などに活躍します。



MR I

磁力と電波で水素の画像を撮る。原理はとても難しいのですが、大雑把に言うと水や脂肪の画像です。残念ながら骨のカルシウムを直接見ることはできませんが、その周りの組織や内部の骨髄の様子はとても良くわかります。炎症が起こると血流が増え、組織の水分も増えるので、滑膜や腱や骨髄の炎症などの検査に活躍します。

エコー（超音波）



高周波リニアプローブの登場などの技術の進歩で、体表近くにある組織や骨の表面が良く見えるようになり、整形外科でのエコーが普及してきました。また、パワードップラーという技術により、血流の様子がわかるようになりました。

炎症が起こると血流が増えることから、滑膜炎などのリウマチ早期からの診断に役立ちます。